

# ヨコトリーツ!

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー Yoko-Treats!

VOL.5  
JUN.2014

## 写真と写真の間には忘却の海がある

トヨタヒトシ氏インタビュー



「ヨコトリーツ! (Yoko-Treats!)」は、「横浜トリエンナーレ」を応援し一緒に盛り上げる活動を行うサポーター「Hama-Treats!」による手作りのフリーペーパーです。「トリーツ/Treats」には、「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味があります。横浜のいいもの、楽しいものをお伝えしたい! ということで名付けました。ハロウィンの決まり文句「Trick or Treat! (トリック オアトリート!)」はお菓子をくれないきゃイタズラするぞ! から連想して、みんながワクワクするような情報交換の場を目指しています。

### ヨコハマトリエンナーレ2014「華氏451の芸術:世界の中心には忘却の海がある」

会期: 2014年8月1日(金)~11月3日(月・祝) | 主会場: 横浜美術館、新港ピア(新港ふ頭展示施設)  
アーティストック・ディレクター: 森村泰昌  
ヨコハマトリエンナーレ2014公式WEBサイト <http://www.yokohamatriennale.jp/>



## 横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats! 5チームの活動報告!

### イベント・企画チーム

とにかくやります、いろんな企画&イベント!

100日前カウントダウンイベントの余韻に浸る間もなく怒濤の開港祭への出店w 並行して本展に向けてあんなことやこんなことを企てる毎日(汗)。迫る30日前カウントダウンイベント! 大丈夫なのか? ...の心配をよそに新メンバーの加勢!! 今後の我々の活躍はいかに... check it out☆(久地岡)

### LOGBOOKチーム

本展に向けてさらに熱く燃えています!

100日前カウントダウンイベントでは、横浜美術館前広場を中心に、沢山のお客様の前で大規模なLOGBOOKイベントを実施でき、メンバーにとって貴重な経験となったと思います。新メンバーも増え、30人近くのチームとなったLOGBOOKチーム! 本展にむけてより熱くなっていますよ!(横井)

### こどもアートチーム

こども×アートでみんなが楽しいワークショップなど企画中!

こどもたちがアートを身近に感じられるように、こどもが楽しめる企画を考えて実践するグループです。オリジナルワークショップを実践! 本展に向けて、まだまだ改善の余地ありなので、新たなアイデアを加えて改訂中。ぜひご参加ください★(伊神)

### フリペチーム

数ヶ月くらい休んでも、ユルしてくれるチームです

個人的に数ヶ月活動休止してました。すみません。そんな私でも改めて温かく迎え入れてくれるチームメイトに感謝です。本展開始が近づき、これからますます熱くなるフリペチームですが、私のようにゆる〜く参加も可能(のはず)! 随時新メンバー募集中。できることから一緒にトライしましょう!(入江)

### デザインチーム

「ヨコトリへ行こう!」Tシャツ、デザインしました!

先日の「開港祭」ではデザインチームがデザインした「ヨコトリへ行こう!」Tシャツを着て広報活動を行いました。7月6日の「30日前カウントダウンイベント」でもサポーターで着用し、ヨコハマトリエンナーレをアピールします! 今後はノベルティ等のデザインや他チームと提携した計画も進行中です!(小林)



江藤真央 <http://maoeto.tumblr.com>

横浜トリエンナーレサポーター「Hama-Treats! (ハマトリートツ!)」は、課外活動として5つのチームに分かれて活動中です。興味を持ったら誰でも参加できますよ!

横浜トリエンナーレサポーター「Hama-Treats!」公式WEBサイト

<http://www.yokotorisup.com>

# 期待にじゅじゅん応えられる ヨコトリーツ2014を目指して

先日、出品作家のひとりである大竹伸朗が新作を制作しているという工場に行ってきた。巨大な作品だ。船の廃材、世界各国で集めた絵はがきや家族写真、解体した船着き場から出た廃材など、無数の捨てられ忘れられた素材が活用され、組み上げられている。

世界各国からの「忘却物」が漂流の果てに「力所」に集まり、一冊の本のようになりまわっている。私の知人のひとりには、これを「忘却の玉手箱」と評した。



©Morimura Yasumasa + ROJIAN

Morimura Yasumasa

## 森村泰昌

【森村泰昌 プロフィール】1951年、大阪市生まれ、同市在住。京都市立芸術大学美術学部卒業、専攻科修了。1985年、ゴッポの自画像に扮したセルフポートレート写真を発表。以後、一貫して「自画像的作品」をテーマに、美術史上の名画や往年の映画女優、20世紀の偉人たちなどに扮した写真や映像作品を制作している。ヨコハマトリエンナーレ2014アーティストック・ディレクター。

### 次号予告

ヨコトリ2014に向けたプログラム活動について横浜美術館教育プロジェクトの方にインタビュー。また、おもてなしプロジェクトや、横浜のまちの面白さを紹介する記事など、盛り沢山の内容で、7月中旬発行予定!

ヨコハマトリエンナーレ 2014 開幕まであと少し!そこで、アーティストプロジェクト支援やチーム活動に参加するサポーターを新たに募集します。サポーターの力でプロジェクトを実現しよう!

**日時** 6月22日(日) ※1部のみ参加も可能です  
**第1部** 13:00 ~ 15:00 アートプロジェクト支援およびチーム活動紹介  
**第2部** 15:00 ~ 17:00 チーム毎のグループワークとヨコトリ2014開幕30日前カウントダウンイベントについての説明会  
**会場** 横浜美術館 円形フォーラム [横浜市西区みなとみらい3-4-1]  
 ※当日は正面入口が閉鎖のため、横浜美術館の西側入口(建物反対側の関係者通用口)へお越し下さい。

申込み・詳細 [www.yokotorisup.com](http://www.yokotorisup.com)

## サポーター活動キックオフミーティング ver.2

**参加者大募集!**

ヨコハマトリエンナーレ2014開催  
30日前カウントダウンイベント  
**忘却の海には何が待つ?**  
7月6日(日)

詳細は『ハマトリートツ!』webサイトにて順次お知らせします  
<http://www.yokotorisup.com>

横浜トリエンナーレサポーター「ハマトリートツ!」が  
メインビジュアルの  
**華氏451の芸術:世界の中心には忘却の海がある**  
をキーワードにみんなでみなとみらいにくり出します。  
**みなさんの参加をお待ちしております!**  
お問合せ、参加申込は **Email: info@yokotorisup.com** まで

# MUST VISIT! inYOKOHAMA

ヨコトリ会場からちょっと足を伸ばして、横浜のまちの魅力も感じてもらいたい! 絶対訪れたい横浜のスポットや散策コースを、横浜トリエンナーレサポーター「ハマトリーツ!」が紹介します。

## 臨港パークで横浜の海を満喫

臨港パークは、「横浜美術館」と「新港ピア」の移動ルートに隣接する市民憩いの場です。

正面に横浜の海と港が広がり、ベイブリッジの優雅な姿、対岸に「新港ピア」の建屋やシンボルのハンマーヘッドクレーン、手前にTVドラマの一場面がよく目にするぶかりさん橋が見えます。運が良ければ大型客船の入出港も見られるでしょう。

臨港パークには種々のモニュメントがあります。その一つがチェ・ジョンファ《フルーツ・ツリー》。2001年開催の第1回横浜トリエンナーレ出展作品。多少の傷・色あせが時の流れを物語ります。ここにある興味深い理由は傍らの銘板で是非確認してください。他に、日本ブラジル修好100周年記念碑「歴史と未来への讃歌-虹空間'95」、日本人ペルー移住100周年記念像「リマちゃん」、「大きな錨」など。



チェ・ジョンファ《フルーツ・ツリー》

特に暑い盛りの芝生広場にできる緑陰、そこでの小休止やテイクアウトのランチなどは至福の時となるでしょう。(深野)

## あなたの願いもかなうはず? 横浜三塔物語

横浜・関内エリアにある3つの建造物、神奈川県庁・横浜税関・横浜市開港記念会館は「横浜三塔」と呼ばれ、それぞれ「キング」「クイーン」「ジャック」のあだ名で親しまれています。最



近ではテレビや雑誌などでもよく取り上げられるようになりました。

三塔が一望できるスポットにはプレートやマークが設置されている

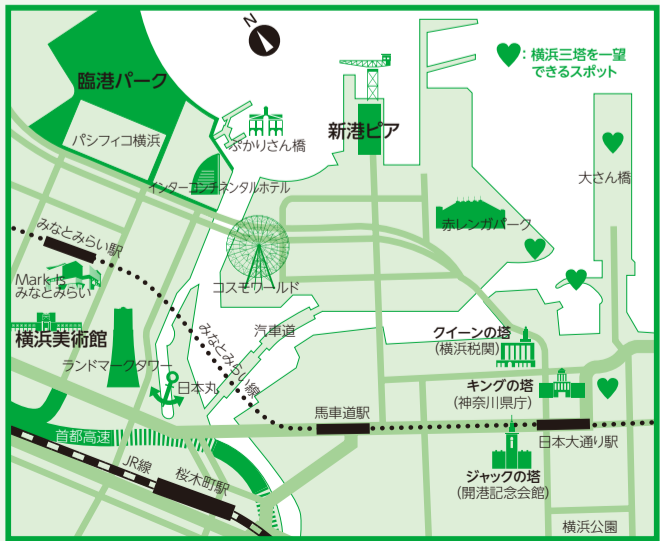
この横浜三塔には、三箇所「全ての塔を一望できるスポットをめぐる」と願いがかなう、という「横浜三塔物語」と呼ばれる都市伝説があります。「かつて横浜港を訪れる外国船の船乗りたちはこの三塔を見ながら航海の安全を願った」「三塔が関東大震災をはじめとする数々の試練を乗り越えてきたことから、この場を訪れたカップルは困難を乗り越えて結ばれる」などの言い伝えが都市伝説の由来となっていますが、ポイントは「三塔をめぐる」のではなく、「三塔を一望できるスポットをめぐる」こと。それぞれのスポットには横浜三塔が見えることを示すプレートがあります。

最近では新たに、これまでの三箇所のスポットのほぼ中心に位置する象の鼻の先端に、三塔が一望できる新たなスポットがオープン、「恋愛祈願の新スポット」となっています。

是非みなさんも、大好きなあの人と一緒に、あるいは次回は想いを寄せるあの人と一緒に来られることを願って、「横浜三塔物語」挑戦してみてくださいはいかがでしょうか。(青木)



ジャック(開港記念会館) クイーン(横浜税関) キング(神奈川県庁)



# 写真と写真の間には忘却の海がある

トヨダヒトシ氏インタビュー



写真をプリントとして残さず、スライドで上映するスタイルのシリーズ作品「映像日記/スライドショー」を発表されているトヨダ氏。そのこだわりの基底には、一瞬一瞬消えていくものをプリントとして固定することへの違和感があるという。スライドで投影される「像」は消えていってしまうのが現実に近い。

5月21日のトリエンナーレ学校で実施された作品上映。そのあとの対談では、質問に対して時間をかけて適切な言葉を探すトヨダ氏が印象的だった。

トリエンナーレ学校のあとに機会をいただいた私たちとのインタビューも、同じように進んだ。言葉と言葉の間にある時間、これは写真と写真の間にある時間を感じさせるトヨダ氏の作品と通じるような気がした。(インタビュー: 柳本, 上田)

**トヨダヒトシ** 1963年NY生まれ、東京育ち。1993年以後ニューヨークを拠点に、ブロードウェイ沿いの駐車場やチャイナタウンの公園、教会、劇場といったパブリックスペースで映写機を自ら操作しながら上映するライブ・スライドショーという形式での長・短編の映像日記作品を発表してきた。2000年より日本でも東京都現代美術館、世田谷美術館、横須賀美術館、タカシイシギャラリーなどの上映の他、廃校になった小学校の校庭等でも上映を行なう。

「プリントだと、鑑賞者が写真の前で立ち止まったり、スキップしたり、戻れたりするのに対して、スライドショーではそのようなことはできず消えていってしまうのが人生に近い」といことを、天野太郎氏(ヨコハマトリエンナーレ2014キュレトリアルヘッド、横浜美術館館長兼芸芸委員)との対談で伺いました。一方、プリントに残さないことは図録も残らないということでもデメリットがあるのではないかと感じます。

僕をやっていることは写真作品ではありませんが、一枚一枚の写真というよりも、スライドで映し出される写真と写真の間の間が大事な要素です。それと写真が「消えていく」こと。プリント写真のように手に取って見てもう一度見ることができないので、どんな作品なのか説明する時に不向きはあります。ライブ上映のみの作品のため、どちらかと言うと演劇やパフォーマンスと同じで、たとえ図録があったとしても、それを見たことと作品を観たことは違うことです。でもそれがデメリットという意識はあまりありません。

「作っていて楽しい、やっていて楽しい」といふ点をお聞かせください。

アナログ映写機を操作してライブで上映するので、上映があるたびにその土地や人に出会えることは僕の人生にとってとても大事なことです。芝生の広場で海に向かってスクリーンが設けられた横須賀美術館、三内丸山縄文遺跡大型竪穴式住居内、東京都現代美術館の脇の窪んだような広場など、様々な会場で上映されていて、場所へのコトワザを感じました。場所はすべて大事に選んでいます。場が持っている気配や、人の思いや営みの記憶が積もっている所だと、うまく映像がのりやすい気がします。川崎市岡本太郎美術館の《母の塔》のある広場での上映は、岡本太郎さんのお母さんの想いのこもった塔を前にして、僕の母が主題のひとつになっている《NAZUNA》という作品を上映したいと思ったことがきっかけで実現しました。東京都現代美術館での上映は、美術館内のいろいろな場所を見た中で、木場の町の音がうまうま降ってくる感じから、あの広場を選びました。犬の鳴き声や消防車のサイレン、遠雷など、町の音が静かに降りてくるように聞こえて、それらも作品の一部となりました。

「ヨコハマトリエンナーレ2014(ヨコトリ2014)」が行われる横浜三塔の場所について何かお感じはありますか。

今回の出展がきっかけで横浜について調べたり、歩いたりしてみたのですが、横浜という街の「興り」が面白いと感じました。ペリーが黒船で来て開港を迫った時に「神奈川」の開港を要求したのですが、当時来ていた「神奈川湊(今の神奈川区あたり)」を開港することは東海道に近いため外国人に入り込まれては困る。幕府はその時に寒村だった横浜を「神奈川横浜」と呼び名を変えて開港場所にしたそうです。そんなたまの経緯によって、ある寒村が今こうして文化を発信している基地になっている。土地も人も、たまにまのことがきっかけになり運命や未来が変わっていくことがあります。そんな横浜の辿ってきた歴史を、今も意識しながら上映会場を選ぶように思っています。

「本展のテーマにある『世界の中心には忘却の海がある』」に關してのようにお考えでしょうか。

「生」とは「死」という大きな海に浮かぶ小舟のようなものだと僕は思っています。このテーマを聞いた時に、世界の中心というよりも世界の底に忘却の海が横たわっているようなイメージを持ちました。最近思うのは、この「生」というものをボツンと浮かんでいる茫漠とした「死」とか「無」という海、それすらをも包んでいるもっと大きなものがあるのではないかと感じ始めています。

「写真を残さない、写真と写真の間に表現されていないものがあるのは、ヨコトリ2014のテーマに繋がっているように感じます。」

僕にとつては写真に撮ったことも、撮らなかつたことも、撮れなかつたことも同じように大切に撮ったものを見ては決して写真を映し出しているというよりも、その間に撮られなかつたものやその存在を大事にして作品を作っています。枚の写真と次の写真が撮られる間は三秒かも知れない三日後かも知れないけれど、時にはその三秒の間に三百間と同じくらい多くのことが詰まっている場合もあります。スライドで映し出される一枚一枚の写真の間に横たわる間。そこには忘却の海みたいなものが漂っているのではないかと感じます。



インタビューに応えるトヨダヒトシ氏(左)

### サポーター活動レポート

## 「ハマトリーツ!」のインターフェイスを作る

サプリーターに聞く、デザインチームってどんなチーム?



横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats! ハマトリーツ!

人が集まって波を生む、がコンセプトの「ハマトリーツ!」ロゴ

「ヨコトリサポーター「ハマトリーツ!」って横浜の人々とアートの関係を密接にしていこうという活動だと思のですが、そういう活動のインターフェイスを整えるのがデザインチームの役目でしょうか。」

とは、デザインチームサプリーターの上里氏。

たとえば、今年一月、マークイズみなとみらい一階グランドガレリアを風船で埋め尽くして衆目を集めた「ハマトリーツ!」企画のヨコトリ2014日前力ウントダウンイベント「未来の自分へ『忘却の手紙』を送ろう!」。そのブースのレイアウト設計や四コママンガを使ったチラシのデザインは、デザインチームにとって発足直後の最初の成果だった。四月の100日前力ウントダウンイベント「忘却の海に手紙を出そう!」でも、ブース看板やチラシなどのデザインに貢献。それに先立つ三月末、トリエンナーレ学校での投票を経て決定した「ハマトリーツ!」のロゴもデザインチームによるものだ。

チームメンバーにはデザイン業の経験者や、自らデザインソフトを扱うような人ばかりが集まっているのだろうか?

「プロのデザイナーさんにもいますが、参加者の半数ぐらいは、必ずしも自ら作品をカタチにしたいというわけではなく、デザインを担っていく。」

「インターフェイス役も重要ですが、デザインを通じて市民にも作りを楽しんでもらえるような独自のワークショップなども、いずれ開発してみたいですね!」

上里氏の心の中にはさまざまなアイデアが眠っているようだ。(山田)